

新ユニット・リンク保険(有期型)【無配当】(一時払)
ライフドゥ

LifeDO

ライフドゥ80

LifeDO₈₀

月次運用実績レポート

2016年2月

特別勘定の名称	主な運用対象の投資信託	投資信託の運用会社
日本株投資力学ファンド	日興アクティブ・ダイナミクス (投資力学)	日興アセットマネジメント株式会社
日本株ジパングファンド	日興ジャパンオープン(ジパング)	日興アセットマネジメント株式会社
日本株エボリューションファンド	日興エボリューション	日興アセットマネジメント株式会社
日本株インデックス225ファンド	インデックスファンド225	日興アセットマネジメント株式会社
日本株インデックスTOPIXファンド	インデックスファンドTSP	日興アセットマネジメント株式会社
グローバルグロースファンド	Gグロース	(運用会社)日興アセットマネジメント株式会社 (運用再委託会社)ウェリントン・マネジメント・カンパニー・エルエルピー
グローバルソブリン債券ファンド	日興・GS世界ソブリン・ファンドVA	(運用会社)日興アセットマネジメント株式会社 (投資助言会社)ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント株式会社
グローバルリートファンド	日興・AMPグローバルREITファンド (6ヶ月決算型)	(運用会社)日興アセットマネジメント株式会社 (投資再委託会社)AMPキャピタル・インベスターズ・リミテッド
グローバルカレンシーファンド	メロン・オフショア・ファンズ [®] 日興グローバル・カレンシー・ファンド(円建クラス)	(管理会社)BNYメロン・インターナショナル・マネジメント・リミテッド (投資運用会社)BNYメロン・アセット・マネジメント・ジャパン株式会社 (副投資運用会社)メロン・キャピタル・マネジメント・コーポレーション
マネーファンド	日興MRF(マネー・リザーブ・ファンド)	日興アセットマネジメント株式会社

<引受保険会社>

<募集代理店>
SMBC日興証券株式会社

 **アクサ生命保険株式会社**
redefining / standards

 **SMBC日興証券**

〒108-8020 東京都港区白金1-17-3
TEL 0120-933-399
アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/>

〈特別勘定の種類〉

日本株投資力学ファンド

日本の経済および産業構造の中長期的展望に基づき、今後有望とみられる成長産業、成長企業の国内株式をトップダウンで選択する投資信託に主に投資することによって東証株価指数を中長期的に上回る投資成果をあげることが目標になります。

運用実績〈ユニット・プライス*〉の推移

*ユニット・プライスとは特別勘定の運用実績を把握するための便宜上の「参考値」で、特別勘定の運用を開始した時点(2002年11月1日始)を「100」として指数化したものです。



特別勘定の騰落率

騰落率	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年	設定来
日本株投資力学ファンド	▲6.05%	▲14.68%	▲10.97%	▲9.16%	44.41%	38.13%

特別勘定資産内訳

	構成比(%)
現預金・その他	4.4
投資信託	95.6
合計	100.0

【参考】主な投資対象の投資信託の運用状況

日興アクティブ・ダイナミクス(投資力学)

日本株投資力学ファンドの主な投資対象である投資信託「日興アクティブ・ダイナミクス(投資力学)」の運用状況をご参考のため掲載します。(出所:日興アセットマネジメント株式会社)

〈基準価額の騰落率〉

	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年	設定来
日興アクティブ・ダイナミクス(投資力学)	▲15.29%	▲11.37%	▲9.34%	47.44%	▲9.75%
TOPIX	▲17.87%	▲15.56%	▲14.83%	33.02%	▲5.42%

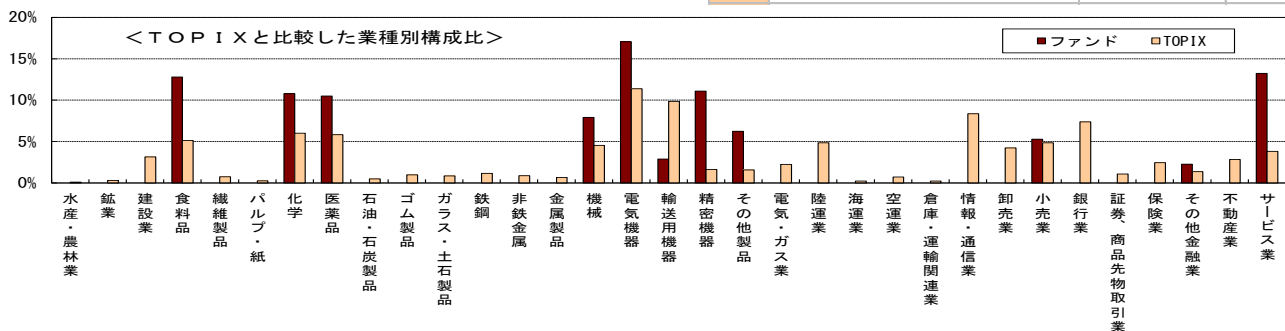
※基準価額の騰落率は、分配金(税引前)を再投資し計算しています。

〈資産構成比率〉

	2016年2月末
株式	96.6%
うち先物	0.0%
現金その他	3.4%

〈株式組入上位10銘柄〉(銘柄数 31銘柄)

	銘柄	業種	比率
1	味の素	食料品	4.55%
2	キーエンス	電気機器	4.42%
3	ホシザキ電機	機械	4.15%
4	朝日インテック	精密機器	4.14%
5	花王	化学	4.11%
6	明治ホールディングス	食料品	3.99%
7	小野薬品工業	医薬品	3.92%
8	アリアケジャパン	食料品	3.89%
9	参天製薬	医薬品	3.83%
10	シスメックス	電気機器	3.72%



※「資産構成比率」「株式組入上位10銘柄」は純資産総額、「業種別構成比」は組入株式の評価額の合計をそれぞれ100%として計算したものです。
 ※「株式組入上位10銘柄」「業種別構成比」はマザーファンドの状況です。

〈運用コメント〉

2月の国内株式市場は、東証株価指数(TOPIX)が前月末比マイナス9.37%、日経平均株価が同マイナス8.51%と下落しました。上旬は、原油価格の下落の継続や、世界経済の先行き不透明感、欧州の金融システム不安の高まり、米国における追加利上げ観測の後退を背景とした円高/アメリカドル安などから、国内株式市場は下落しました。中旬から下旬にかけては、主要な産油国による原油の増産凍結への動きを受けた原油価格の底打ち観測や、米国における市場予想を上回る経済指標の発表などが株価の下支えとなる一方、為替の円高/アメリカドル安傾向などが重しとなり、国内株式市場はもみ合いの展開となりました。東証33業種分類では、前月末比で全ての業種が下落しました。特に、鉱業、ガラス・土石製品、銀行業などが大幅な下落となりました。

今月の主な投資行動につきましては、銘柄入れ替えや一部の銘柄の投資比率の調整を行いました。医薬業界や医療機器業界で、グローバルに業績を伸ばすことが期待できる銘柄などの新規購入を行う一方、業績モメンタムに鈍化傾向の懸念がある銘柄などを中心に売却しました。

精密株、食品株、電気機器株、サービス株、化学株などのオーバーウェイトがマイナスに寄与したものの、銀行株、輸送用機器株、陸運株、保険株などのアンダーウェイトがプラスに寄与したことから、3.06%のアウトパフォーマンスとなりました。

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。

※その他、当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を11/11ページに掲載していますので必ずご参照ください。

<特別勘定の種類>

日本株ジパングファンド

日本の経済および産業構造の中長期的展望に基づき、今後有望とみられる成長産業、成長企業の国内株式をボトムアップで選択する投資信託に主に投資することによって東証株価指数を中長期的に上回る投資成果をあげることを目指します。

運用実績<ユニット・プライス*>の推移

*ユニット・プライスとは特別勘定の運用実績を把握するための便宜上の「参考値」で、特別勘定の運用を開始した時点(2002年11月1日始)を「100」として指数化したものです。



特別勘定の騰落率

騰落率	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年	設定来
日本株ジパングファンド	▲8.41%	▲15.84%	▲12.16%	▲8.18%	51.24%	86.07%

特別勘定資産内訳

	構成比(%)
現預金・その他	4.1
投資信託	95.9
合計	100.0

【参考】主な投資対象の投資信託の運用状況

日興ジャパンオープン(ジパング)

日本株ジパングファンドの主な投資対象である投資信託「日興ジャパンオープン(ジパング)」の運用状況をご参考のため掲載します。(出所:日興アセットマネジメント株式会社)

<基準価額の騰落率>

設定日1998年8月28日

	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年	設定来
日興ジャパンオープン(ジパング)	▲16.52%	▲12.63%	▲8.39%	54.37%	25.08%
TOPIX	▲17.87%	▲15.56%	▲14.83%	33.02%	16.19%

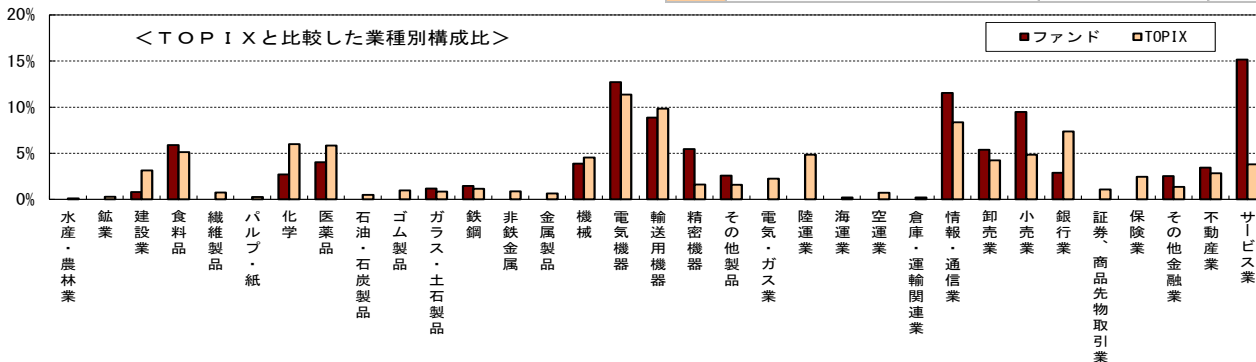
※基準価額の騰落率は、分配金(税引前)を再投資し計算しています。

<資産構成比率>

	2016年2月末
株式	96.4%
うち先物	0.0%
現金その他	3.6%

<株式組入上位10銘柄>(銘柄数 81銘柄)

	銘柄	業種	比率
1	NTTドコモ	情報・通信業	2.54%
2	小野薬品工業	医薬品	2.10%
3	キーエンス	電気機器	2.10%
4	トヨタ自動車	輸送用機器	2.03%
5	朝日インテック	精密機器	1.95%
6	日本M&Aセンター	サービス業	1.95%
7	ダイキン工業	機械	1.95%
8	ニトリホールディングス	小売業	1.90%
9	ホンザキ電機	機械	1.82%
10	味の素	食料品	1.81%



※「資産構成比率」「株式組入上位10銘柄」は純資産総額、「業種別構成比」は組入株式の評価額の合計をそれぞれ100%として計算したものです。

※「株式組入上位10銘柄」「業種別構成比」はマザーファンドの状況です。

<運用コメント>

2月の国内株式市場は、東証株価指数(TOPIX)が前月末比マイナス9.37%、日経平均株価が同マイナス8.51%と下落しました。上旬は、原油価格の下落の継続や、世界経済の先行き不透明感、欧州の金融システム不安の高まり、米国における追加利上げ観測の後退を背景とした円高/アメリカドル安などから、国内株式市場は下落しました。中旬から下旬にかけては、主要な産油国による原油の増産凍結への動きを受けた原油価格の底打ち観測や、米国における市場予想を上回る経済指標の発表などが株価の下支えとなる一方、為替の円高/アメリカドル安傾向などが重しとなり、国内株式市場はもみ合いの展開となりました。東証33業種分類では、前月末比で全ての業種が下落しました。特に、鉱業、ガラス・土石製品、銀行業などが大幅な下落となりました。

当ファンドでは、成長分野での高い競争力や事業再編効果などによって、今後の業績拡大が期待できる企業の選別を進め、株価の割安性も重視した運用を行ないました。中期的な観点から、世界で高いシェアを持つ企業や、構造改善による業績拡大が見込まれる企業、日本経済の構造変化を捉えて成長することが期待できる企業などに重点を置いた運用を行なっています。今月の主な投資行動としては、マイナス金利政策による需要拡大が期待される不動産関連企業や、株価の下落で割安感が強まった総合商社、株主還元の姿勢が評価できる通信関連企業の一部などを買い付け一方で、世界経済の先行き不透明感が強まっていることなどから、自動車、電気機器、銀行の一部などを売却しました。このような運用の結果、当月末における当ファンドの基準価額は前月末比でマイナス8.78%となり、TOPIXのマイナス9.37%を上回りました。

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。

※その他、当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を11/11ページに掲載していますので必ずご参照ください。

〈特別勘定の種類〉

日本株エボリューションファンド

全世界の経済動向および産業構造の中長期的展望に基づき、今後有望とみられる国内株式を主な投資対象とする
投資信託に主に投資することによって、中長期的な投資成果を積極的にあげることが目標になります。

運用実績〈ユニット・プライス*〉の推移

* ユニット・プライスとは特別勘定の運用実績を把握するための便宜上の「参考値」で、特別勘定の運用を開始した時点(2002年11月1日始)を「100」として指数化したものです。



特別勘定の騰落率

騰落率	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年	設定来
日本株エボリューションファンド	▲9.32%	▲16.63%	▲13.66%	▲11.55%	46.32%	14.16%

特別勘定資産内訳

	構成比(%)
現預金・その他	4.4
投資信託	95.6
合計	100.0

【参考】主な投資対象の投資信託の運用状況

日興エボリューション

日本株エボリューションファンドの主な投資対象である投資信託「日興エボリューション」の運用状況をご参考のため掲載します。(出所:日興アセットマネジメント株式会社)

〈基準価額の騰落率〉

設定日2000年4月21日

	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年	設定来
日興エボリューション	▲17.29%	▲14.16%	▲11.90%	49.22%	▲38.64%

※基準価額の騰落率は、分配金(税引前)を再投資し計算しています。

〈株式組入上位10銘柄〉 (銘柄数 79銘柄)

	銘柄	通貨	業種	比率
1	トヨタ自動車	日本円	輸送用機器	2.94%
2	日本電信電話	日本円	情報・通信業	2.58%
3	小糸製作所	日本円	電気機器	2.58%
4	NTTドコモ	日本円	情報・通信業	2.58%
5	シスメックス	日本円	電気機器	2.57%
6	KDDI	日本円	情報・通信業	2.55%
7	塩野義製薬	日本円	医薬品	2.53%
8	ニフコ	日本円	化学	2.52%
9	花王	日本円	化学	2.50%
10	日本たばこ産業	日本円	食料品	2.49%

※「株式組入上位10銘柄」は純資産総額を100%として計算したものです。

〈投資テーマ別組入状況〉

投資テーマ	比率
新興国における購買力の上昇	27.6%
消費行動の変化	5.2%
人口動態・構造の変化	16.2%
インフラ需要の拡大	7.0%
グローバルな競争力	18.2%
株式価値の継続的な向上	18.6%
その他	7.1%

※2012年8月31日付けのマンスリーレポートより「投資テーマ」の分類を変更しております。

※「投資テーマ別組入状況」は組入株式の評価額の合計を100%として計算しています。

※上記「投資テーマ」は将来変更になる場合があります。

〈運用コメント〉

2月の国内株式市場は、東証株価指数(TOPIX)が前月末比マイナス9.37%、日経平均株価が同マイナス8.51%と下落しました。上旬は、原油価格の下落の継続や、世界経済の先行き不透明感、欧州の金融システム不安の高まり、米国における追加利上げ観測の後退を背景とした円高/アメリカドル安などから、国内株式市場は下落しました。中旬から下旬にかけては、主要な産油国による原油の増産凍結への動きを受けた原油価格の底打ち観測や、米国における市場予想を上回る経済指標の発表などが株価の下支えとなる一方、為替の円高/アメリカドル安傾向などが重しとなり、国内株式市場はもみ合いの展開となりました。東証33業種分類では、前月末比で全ての業種が下落しました。特に、鉱業、ガラス・土石製品、銀行業などが大幅な下落となりました。このような環境下、当ファンドは前月末比マイナス9.71%となりました。月中におきましては、足元のファンダメンタルズとともに、今・来期以降の業績動向を勘案し売買を行いました。具体的には、為替など外部環境が不透明な中、個別要因により安定した業績と株価上昇が期待できるサービス関連銘柄や、株価下落により悪材料の織り込みが進んだと思われる資源関連銘柄などの新規組み入れ、ウェイト引き上げを行いました。一方、来期以降の業績動向に対しやや懸念材料の増した自動車関連銘柄や、マイナス金利導入による業績上の悪影響が懸念される金融関連銘柄などの売却、ウェイト引き下げを行いました。月間の寄与度で見ると、上位には医療機器やトイレタリー関連銘柄が入る一方、下位には電子部品や自動車関連銘柄などが入りました。

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。
※その他、当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を11/11ページに掲載していますので必ずご参照ください。

<特別勘定の種類>

日本株インデックス225ファンド

国内上場株式に投資することにより、日経平均株価指数に連動した投資成果をあげることを目指します。

運用実績<ユニット・プライス*>の推移

*ユニット・プライスとは特別勘定の運用実績を把握するための便宜上の「参考値」で、特別勘定の運用を開始した時点(2002年11月1日始)を「100」として指数化したものです。



特別勘定の騰落率

騰落率	1か月	3か月	6か月	1年	3年	設定来
日本株インデックス225ファンド	▲8.12%	▲17.98%	▲14.03%	▲13.34%	41.03%	99.02%

特別勘定資産内訳

	構成比(%)
現預金・その他	4.6
投資信託	95.4
合計	100.0

【参考】主な投資対象の投資信託の運用状況

インデックスファンド225

日本株インデックス225ファンドの主な投資対象である投資信託「インデックスファンド225」の運用状況をご参考のため掲載します。(出所:日興アセットマネジメント株式会社)

<基準価額の騰落率>

	3か月	6か月	1年	3年
インデックスファンド225	▲18.76%	▲14.63%	▲13.73%	43.59%
日経225	▲18.84%	▲15.16%	▲14.74%	38.65%

※基準価額の騰落率は、分配金(税引前)を再投資し計算しています。

<国内株式組入上位5業種>

	業種	比率
1	電気機器	16.3%
2	情報・通信業	11.8%
3	小売業	10.4%
4	医薬品	8.3%
5	化学	8.0%

<資産構成比率>

株式	100.0%
うち先物	1.4%
現金その他	1.4%

※「資産構成比率」「株式組入上位10銘柄」の比率は純資産総額を、「株式組入上位5業種」の比率は組入株式の評価額の合計を、それぞれ100%として計算したものです。

※「株式組入上位5業種」「株式組入上位10銘柄」はマザーファンドの状況です。

業種は東証33業種分類によるものです。

※「資産構成比率」はマザーファンドの投資状況を反映した実質の組入比率です。

<株式組入上位10銘柄> (銘柄数: 225銘柄)

	銘柄	業種	比率
1	ファーストリテイリング	小売業	7.64%
2	KDDI	情報・通信業	4.21%
3	ソフトバンクグループ	情報・通信業	4.08%
4	ファナック	電気機器	4.05%
5	京セラ	電気機器	2.43%
6	アステラス製薬	医薬品	1.98%
7	セコム	サービス業	1.96%
8	テルモ	精密機器	1.88%
9	ダイキン工業	機械	1.85%
10	エーザイ	医薬品	1.70%

<運用コメント>

2月の国内株式市場は、日経平均株価が前月末比マイナス8.51%と下落しました。上旬は、原油価格の下落の継続や、世界経済の先行き不透明感、欧州の金融システム不安の高まり、米国における追加利上げ観測の後退を背景とした円高/アメリカドル安などから、国内株式市場は下落しました。中旬から下旬にかけては、主要な産油国による原油の増産凍結への動きを受けた原油価格の底打ち観測や、米国における市場予想を上回る経済指標の発表などが株価の下支えとなる一方、為替の円高/アメリカドル安傾向などが重しとなり、国内株式市場はもみ合いの展開となりました。

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。
※その他、当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を11/11ページに掲載していますので必ずご参照ください。

<特別勘定の種類>

日本株インデックスTOPIXファンド

国内上場株式に投資することにより、東証株価指数に連動した投資成果をあげることが目標になります。

運用実績<ユニット・プライス*>の推移

*ユニット・プライスとは特別勘定の運用実績を把握するための便宜上の「参考値」で、特別勘定の運用を開始した時点(2002年11月1日始)を「100」として指数化したものです。



特別勘定の騰落率

騰落率	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年	設定来
日本株インデックスTOPIXファンド	▲9.05%	▲17.15%	▲14.45%	▲13.22%	36.38%	65.36%

特別勘定資産内訳

	構成比(%)
現預金・その他	4.9
投資信託	95.1
合計	100.0

【参考】主な投資対象の投資信託の運用状況

インデックスファンドTSP

日本株インデックスTOPIXファンドの主な投資対象である投資信託「インデックスファンドTSP」の運用状況をご参考のため掲載します。(出所:日興アセットマネジメント株式会社)

<基準価額の騰落率>

	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年
インデックスファンドTSP	▲17.90%	▲15.04%	▲13.72%	38.60%
TOPIX	▲17.87%	▲15.56%	▲14.83%	33.02%

※基準価額の騰落率は、分配金(税引前)を再投資し計算しています。

<資産構成比>

株式	100.1%
うち先物	3.3%
CB	0.0%
公社債	0.0%
現金その他	3.2%
外貨建資産	0.0%

<国内株式組入上位5業種>

	業種	比率
1	電気機器	11.4%
2	輸送用機器	9.8%
3	情報・通信業	8.4%
4	銀行業	7.4%
5	化学	6.0%

※「国内株式組入上位5業種」、「国内株式組入上位10銘柄」はマザーファンドの状況です。

※「資産構成比」、「国内株式組入上位10銘柄」の比率は対純資産、「国内株式組入上位5業種」の比率は対組入株式時価総額です。

<国内株式組入上位10銘柄>(銘柄数 1902銘柄)

	銘柄	業種	比率
1	トヨタ自動車	輸送用機器	3.81%
2	三菱UFJフィナンシャル・グループ	銀行業	2.00%
3	日本電信電話	情報・通信業	1.90%
4	ソフトバンクグループ	情報・通信業	1.62%
5	日本たばこ産業	食料品	1.55%
6	KDDI	情報・通信業	1.50%
7	本田技研工業	輸送用機器	1.35%
8	三井住友フィナンシャルグループ	銀行業	1.30%
9	みずほフィナンシャルグループ	銀行業	1.20%
10	武田薬品工業	医薬品	1.16%

<運用コメント>

◎運用概況

当ファンドはTOPIX(東証株価指数)に連動した投資成果をめざすファンドです。実際の運用は、「インデックス マザーファンド TOPIX」受益証券を高位に組入れ、株式先物を利用して実質株式組入比率を100%程度で推移させています。「インデックス マザーファンド TOPIX」では、「バーラ 日本株式モデル」を使用して1,900銘柄程度に投資し、TOPIXへの連動性の高いポートフォリオを構築するとともに、株式先物を利用して実質の株式組入比率を100%程度で推移させています。

2月における当ファンドの基準価額は、TOPIXの9.37%の下落に対し、9.43%の下落となりました。今後もこれまでの運用方針を継続し、TOPIXに連動した投資成果を目指します。

◎株式市況

2月の国内株式市場は、TOPIXが前月末比マイナス9.37%と下落しました。上旬は、原油価格の下落の継続や、世界経済の先行き不透明感、欧州の金融システム不安の高まり、米国における追加利上げ観測の後退を背景とした円高/ドル安などから、国内株式市場は下落しました。中旬から下旬にかけては、主要な産油国による原油の増産凍結への動きを受けた原油価格の底打ち観測や、米国における市場予想を上回る経済指標の発表などが株価の下支えとなる一方、為替の円高/ドル安傾向などが重しとなり、国内株式市場はもみ合いの展開となりました。

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。

※その他、当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を11/11ページに掲載していますので必ずご参照ください。

〈特別勘定の種類〉

グローバルグロースファンド

日本を含む世界主要先進国の株式のなかから特に世界的に競争力に優れた成長企業の株式に投資し、外貨建ベースの優れた収益の獲得を目指す投資信託に主に投資することによって、中長期的な観点から、日本を含む世界主要先進国の株式市場全体(MSCIワールド指数)の動きを上回る投資成果の獲得を目指します。

運用実績〈ユニット・プライス*〉の推移

* ユニット・プライスとは特別勘定の運用実績を把握するための便宜上の「参考値」で、特別勘定の運用を開始した時点(2003年7月1日始)を「100」として指数化したものです。



特別勘定の騰落率

騰落率	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年	設定来
グローバルグロースファンド	▲5.92%	▲17.40%	▲13.73%	▲13.85%	45.52%	74.07%

特別勘定資産内訳

	構成比(%)
現預金・その他	4.8
投資信託	95.2
合計	100.0

【参考】主な投資対象の投資信託の運用状況

Gグロース

グローバルグロースファンドの主な投資対象である投資信託「Gグロース」の運用状況をご参考のため掲載します。(出所:日興アセットマネジメント株式会社)

〈基準価額の騰落率〉

設定日2001年4月20日

	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年	設定来
Gグロース	▲18.16%	▲14.32%	▲14.37%	48.31%	47.22%
MSCIワールド指数	▲15.42%	▲12.10%	▲16.53%	36.43%	29.40%

※基準価額の騰落率は、分配金(税引前)を再投資し計算しています。

〈資産構成比〉

国内株式(先物含む)	7.1%
外国株式(先物含む)	89.8%
CB	0.0%
公社債	0.0%
現金その他	3.1%

〈株式組入上位10銘柄〉(銘柄数 72銘柄)

	銘柄	通貨	業種	比率
1	ALPHABET INC-CL C	アメリカドル	ソフトウェア・サービス	4.3%
2	BRISTOL-MYERS SQUIBB CO	アメリカドル	医薬品・バイオテクノロジー	3.6%
3	FACEBOOK INC-A	アメリカドル	ソフトウェア・サービス	2.6%
4	AMAZON.COM INC	アメリカドル	小売	2.6%
5	MONDELEZ INTERNATIONAL INC	アメリカドル	食品・飲料・タバコ	2.1%
6	ALLERGAN PLC	アメリカドル	医薬品・バイオテクノロジー	2.0%
7	ROCHE HOLDING AG-GENUSSCHEIN	スイスフラン	医薬品・バイオテクノロジー	1.8%
8	LOWE'S COS INC	アメリカドル	小売	1.7%
9	ADOBE SYSTEMS INC	アメリカドル	ソフトウェア・サービス	1.7%
10	CELGENE CORP	アメリカドル	医薬品・バイオテクノロジー	1.6%

〈株式組入上位5カ国〉

1	アメリカ	57.8%
2	日本	7.2%
3	イギリス	6.9%
4	アイルランド	4.0%
5	ドイツ	3.3%

※「株式組入上位5カ国」「株式組入上位10銘柄」の比率は、マザーファンドの状況で、対純資産総額比です。「資産構成比」はマザーファンドの投資状況を反映した実質の組入比率です。

〈運用コメント〉

2月のグローバル株式は、多くの市場で続落となりました。米国市場は、景気減速懸念や、企業向けソフトウェア会社の決算が市場予想を下回ったことに対する失望、欧州金融機関の資金繰り懸念などで投資家心理が悪化し、中盤までリスクオフが進展しました。ただし期後半以降は、底堅いマクロ経済指標の発表を受けて米景気に対する悲観が後退し、株価は回復しました。欧州市場も期前半は、世界景気の不透明感に加え、一部銀行の経営不安が台頭したことで銀行株が売られ、軟調に推移しました。リスクオフが一巡して中盤、徐々に買戻しの動きが見られ、期後半にはECBによる追加金融緩和期待が相場を下支えしました。アジア市場では、期前半は原油の動向に影響を受け軟調に推移しましたが、決算シーズンを迎え個別物色の色彩も強く、期後半は原油の持ち直しで投資家心理が回復、株価は緩やかに上昇基調となりました。

このような中、ボトムアップによる銘柄選択に基づき、情報技術セクターやヘルスケアセクターなどの保有比率を上昇させた一方、金融セクターや資本財・サービスセクターなどの保有比率を低下させました。情報技術セクターでは、ペイメント処理技術に携わる英国の新規公開銘柄を新規に組み入れました。様々なチャネルを通じてクレジットカードやデビットカードによる様々な決済サービスを提供する同社は、新技術を背景に競合他社からの差別化を図り、市場シェアを獲得すると同時に、新製品の投入を容易にすると見えています。さらに、業界は再編局面を迎えていると見られ、生き残る企業には価格支配力などの利点をもたらす可能性があります。ポートフォリオでは、月初めの株価急落を捉えて、新規に組み入れました。ヘルスケアセクターでは、低分子薬の開発、製品化に特化した米国のバイオ製薬会社を新たに組み入れました。その一方で、金融セクターでは、イタリヤとインドの銀行を全売却し、アンダーウェイト幅を広げました。資本財・サービスセクターにおいても、米国の航空銘柄を全売却して、アンダーウェイト幅を広げました。

2月末現在、ベンチマーク対比でオーバーウェイトとしているセクターは、情報技術、一般消費財・サービス、ヘルスケアなどで、対してアンダーウェイトとしているのは金融、資本財・サービス、公益事業などです。

今後も銘柄選択ならびにセクター選択を重視し、世界のリーディングカンパニーの経営陣との面談を続け、社内のリサーチ資源を幅広く活用し、徹底的なボトムアップ調査を行なっていきます。世界的な競争力を有し、地域市場におけるリーダー格の、質の高い成長型企業を選別し、投資を行ないます。

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。

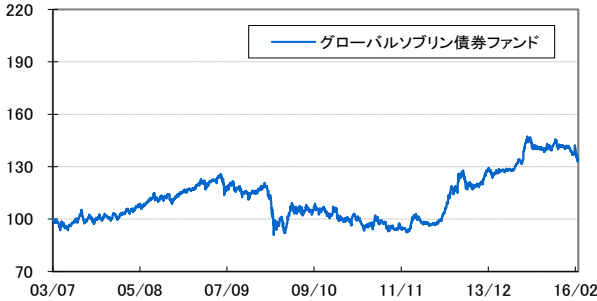
※その他、当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を11/11ページに掲載していますので必ずご参照ください。

〈特別勘定の種類〉 グローバルソブリン債券ファンド

世界先進国の信用度の高いソブリン債(※)を中心に分散投資する投資信託に主に投資することによって、安定した収益の確保と長期的な成長を目指します。
(※ソブリン債とは、各国政府や政府機関が発行する債券の総称です。主要先進国の国債や世界銀行、アジア開発銀行などの国際機関が発行する債券が含まれます。)

運用実績〈ユニット・プライス*〉の推移

* ユニット・プライスとは特別勘定の運用実績を把握するための便宜上の「参考値」で、特別勘定の運用を開始した時点(2003年7月1日始)を「100」として指数化したものです。



特別勘定の騰落率

騰落率	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年	設定来
グローバルソブリン債券ファンド	▲5.24%	▲4.77%	▲5.26%	▲4.87%	16.92%	34.50%

特別勘定資産内訳

	構成比(%)
現預金・その他	4.6
投資信託	95.4
合計	100.0

【参考】主な投資対象の投資信託の運用状況

日興・GS世界ソブリン・ファンドVA

グローバルソブリン債券ファンドの主な投資対象である投資信託「日興・GS世界ソブリン・ファンドVA」の運用状況をご参考のため掲載します。
(出所:日興アセットマネジメント株式会社、ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント株式会社)

〈基準価額の騰落率〉

設定日2003年6月30日

	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年	設定来
日興・GS世界ソブリン・ファンドVA	▲4.93%	▲5.39%	▲4.89%	18.46%	35.45%

※基準価額の騰落率は、分配金(税引前)を再投資し計算しています。

〈ファンド情報〉

平均格付	AA+
平均クーポン	6.45%
平均利回り	0.53%

※格付は、S&P社によるものを原則としています。

〈通貨比率〉

	ポートフォリオ
米ドル	48.48%
米ドル以外のドル圏	6.53%
ユーロ	40.49%
ユーロ以外の欧州通貨	7.19%
日本円	▲2.70%

※「通貨比率」および「債券地域別比率」は、運用委託先のゴールドマン・サックス・アセット・マネジメントから提供を受けた直近の資産配分変更時のモデル・ポートフォリオの配分を示しています。実際の金額配分は上記とは異なる場合があります。

〈債券組入上位銘柄〉

	銘柄名	クーポン	償還日	通貨	格付	構成比
1	ドイツ国債	6.25%	2024/1/4	ユーロ	AAA	25.6%
2	アメリカ国債	8.75%	2020/8/15	米ドル	AA+	17.8%
3	アメリカ国債	8%	2021/11/15	米ドル	AA+	13.2%
4	アメリカ国債	8.75%	2017/5/15	米ドル	AA+	11.7%
5	ドイツ国債	6.5%	2027/7/4	ユーロ	AAA	9.3%
6	イギリス国債	4.5%	2042/12/7	イギリスポンド	AAA	4.3%

※「債券組入上位銘柄」の比率は純資産総額を100%として計算したものです。

〈債券地域別比率〉

	ポートフォリオ
米国	38.86%
米国以外のドル圏	3.94%
ユーロ圏	43.10%
ユーロ圏以外の欧州	11.42%
日本	5.21%

〈運用コメント〉

◎2月の市場動向

〈債券市場〉

当月の債券市場は、全般的に価格は上昇(利回りは低下)傾向となりました。主要債券市場の中では、日本やドイツが相対的に大きく上昇し、カナダや米国は相対的に小幅な上昇となりました。各国の国債利回り推移を見ると、日本10年国債利回りは、前月末の0.10%から上旬に一時マイナス水準まで低下した後、中旬は0.09%まで上昇しましたが、その後は再び低下傾向となり、結局マイナス0.06%で月を終えました。ドイツ10年国債利回りは、前月末の0.3%台前半から月を通じて低下傾向となり、結局0.1%近辺で月を終えました。一方、カナダ10年国債利回りは、前月末の1.2%台前半から上旬は1.0%近辺まで低下しましたが、その後はやや上昇傾向で推移した結果、1.2%近辺で月を終えました。米国10年国債利回りは、前月末の1.9%台前半から月の前半は低下傾向となり一時1.6%台半ばまで低下したものの、月の後半はほぼ横ばいで推移した結果、1.7%台前半で月を終えました。

〈為替市場〉

当月の為替市場は、主要通貨の全てが対円で下落する展開となりました。対円で相対的に大きく下落したのは、英ポンド、スウェーデン・クローナなどでした。一方、カナダ・ドル、スイス・フランなどは相対的に小幅な下落となりました。

◎投資対象の評価

〈資産間配分〉

資産間配分においては、世界債券に対しては、モメンタムの観点から強気の見通しとしています。

〈債券国別配分〉

債券国別配分においては、日本や英国に対して強気の見通しとする一方で、米国に対して弱気の見通しとしています。日本に対しては、バリュウの観点から強気の見通しとしています。英国に対しては、マクロの観点から強気の見通しとしています。米国に対しては、マクロの観点から弱気の見通しとしています。

〈通貨配分〉

通貨配分においては、米国やオーストラリアなどに対して強気の見通しとする一方で、英国や日本などに対して弱気の見通しとしています。米国に対しては、モメンタムの観点から強気の見通しとしています。オーストラリアに対しては、マクロの観点から強気の見通しとしています。英国に対しては、バリュウの観点から弱気の見通しとしています。日本に対しては、資金フローの観点から弱気の見通しとしています。

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。
※その他、当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を11/11ページに掲載していますので必ずご参照ください。

〈特別勘定の種類〉

グローバルリートファンド

世界各国の上場不動産投信（REIT = Real Estate Investment Trust）を主な投資対象とする投資信託に主に投資することにより、中長期的に高い投資成果をあげることを目標とします。

運用実績〈ユニット・プライス*〉の推移

*ユニット・プライスとは特別勘定の運用実績を把握するための便宜上の「参考値」で、特別勘定の運用を開始した時点（2004年7月12日始）を「100」として指数化したものです。



特別勘定の騰落率

騰落率	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年	設定来
グローバルリートファンド	▲4.87%	▲10.31%	▲4.58%	▲9.33%	38.47%	100.92%

特別勘定資産内訳

	構成比(%)
現預金・その他	4.5
投資信託	95.5
合計	100.0

【参考】主な投資対象の投資信託の運用状況

日興・AMPグローバルREITファンド(6ヵ月決算型)

グローバルリートファンドの主な投資対象である投資信託「日興・AMPグローバルREITファンド(6ヵ月決算型)」の運用状況をご参考のため掲載します。(出所:日興アセットマネジメント株式会社)

〈基準価額の騰落率〉

設定日は2004年7月1日

	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年	設定来
Gリート	▲10.79%	▲4.76%	▲9.62%	41.10%	122.67%

※基準価額の騰落率は、分配金(税引前)を再投資し計算しています。

〈不動産投信 国別上位投資比率〉

国名	比率
1 アメリカ	62.6%
2 フランス	11.3%
3 オーストラリア	7.5%
4 日本	7.1%
5 イギリス	6.1%
6 スペイン	2.6%
7 カナダ	1.8%
8 ドイツ	1.0%
9	
10	

〈組入不動産投信の予想分配金利回り(年率換算)〉

ファンド全体	4.07%
地域別	
アメリカ	4.44%
カナダ	5.15%
オーストラリア	4.57%
欧州	4.48%
イギリス	1.90%
その他	3.29%

※マザーファンドの状況です。
※比率は、対組入不動産投信時価総額比です。

〈資産構成比〉

不動産投信	93.5%
現金その他	6.5%

※マザーファンドの投資状況を反映した実質の組入比率です。

組入銘柄数 42銘柄

※予想分配金利回りは、月末時点で組み入れている各不動産投信の予想分配金利回りをマザーファンド全体、あるいは地域別で不動産投信時価評価額のウェイトで加重平均したものです。
※「地域別」の利回りは、2010年6月30日データ分より「投資対象国現地で支払う税金控除前」に変更しました。
※AMPキャピタル・インベスターズ・リミテッドの予想であり、当ファンド及び組入不動産投信の利回り、運用成果等について何ら約束をするものではありません。

〈基準価額騰落の要因分解(月次ベース)〉

前月末基準価額	6,310円
当月お支払いした分配金	0円
要	
不動産投信	33円
アメリカ	(23円)
カナダ	(5円)
オーストラリア	(4円)
欧州	(-14円)
イギリス	(-12円)
その他	(27円)
為替	-348円
米ドル	(-227円)
加ドル	(-3円)
豪ドル	(-29円)
ユーロ	(-54円)
英ポンド	(-35円)
その他	(-0円)
その他	-8円
小計	-324円
当月末基準価額	5,986円

※上記の要因分解は、概算値であり、実際の基準価額の変動を正確に説明するものではありません。傾向を知るための参考値としてご覧ください。

〈運用コメント〉

◎市場の概観

2016年2月のグローバルREIT市場は、中国をはじめとする世界経済の見通しを巡る不透明感と、景気後退懸念を背景にボラティリティが高まり、月の前半は下落したものの、後半はその下落分を取戻し、グローバルREIT市場は上昇しました。米国市場は、他の米国資産と同様に大きく変動しましたが、月末時点では若干の上昇となりました。経済指標はまちまちな内容で、企業信頼感と製造関連データが弱含んだ一方で、1月の家計貯蓄率が上昇したほか小売売上高も好調でした。豪州市場は、好調な企業半期決算が見られたことから全てのセクターで上昇し、株式市場を上回りました。欧州大陸市場と英国市場は、好調な企業決算発表にも関わらず株価が反動せず揃って下落し、英国市場は主要市場で最大の下げ幅となりました。英国市場では「Brexit(ブレグジット、英国のEU離脱)」に対する懸念が高まり、英国とEUとの交渉の行方が嫌気された可能性があります。日本市場も大幅に上昇しました。日銀のマイナス金利導入によって金利全般が低下したことにより、利回りを求める投資家を引き付けたこと等からREIT市場が支えられました。

◎投資行動

健全な財務体質と、魅力的な商業用資産を開発・保有しており、今後も力強い賃料成長が期待できる小売REITを英国市場で、また、リバランス目的で、今後も海外投資家からの需要が高く、分散された資産を持つ同業他社に比べてより長期的な成長が期待できる、マンハッタンオフィス資産に特化しているオフィスREIT、及び成長著しい米国西海岸にエクスポージャーを持つ住宅REIT、老人ホーム等を所有・運営するファンダメンタルズが良好なヘルスケアREITの3銘柄を米国市場で、スペインに対しポジティブな見方を持っていることから分散型REITをスペイン市場で追加購入しました。一方、豪州の特に住宅セクターの軟調が懸念されることから住宅エクスポージャーを持つ分散型REITを豪州市場で全売却したほか、世界および米国経済の減速が懸念されることから、マンハッタンを中心にAクラスのオフィス資産を有するオフィスREITを米国市場で部分売却しました。また、経済の軟調や米ドル高による観光業への悪影響を受けるとみて、米国でスマート・ホテルを展開するホテルREITと、ハワイのワイキキビーチにエクスポージャーを保有する分散型REITを米国市場で全売却しました。また、商業用不動産の開発・運営等を行う小売REITを、フランス市場においてリバランス目的で部分売却しました。

◎今後の見通しおよび運用方針

先進国REIT市場に対しポジティブな見方を維持する一方、中国を中心に新興国市場に対しては慎重な姿勢を維持しています。英国の金利引き上げについては、今のところその兆しは見られませんが、日本やスウェーデンがマイナス金利を実施する中、米国と英国は金利引上げのタイミングを慎重に見計らっています。米国においては、目先、短期リースセクターをポジティブに見ています。豪州市場に関しては、住宅ローンの引き上げなどから住宅セクターに対してネガティブに見ていますが、一方、オフィスセクターにおいては、シドニーとメルボルンで賃料上昇の動きが見られることからオフィスREITの中期的な見通しに対し、ポジティブな見方を維持しています。英国市場に関しては、引き続きウエストエンドに重点を置くことに特化した銘柄に対し最もポジティブな見方を持っています。欧州大陸市場では、原油安と緩和的な金融環境を鑑み、小売銘柄に対する見通しが改善しています。域内では、引き続きスペイン市場に投資妙味があると評価しており、不安定な政局によるボラティリティの高まりは市場に織り込み済みと考えています。ノルウェーとスウェーデンを筆頭とする北欧市場に対するポジティブな見方も維持しています。日本市場については、マイナス金利導入の影響を見極める所存です。また、ファンダメンタルズが好調なことから、ホテルセクターに対するポジティブな見方を維持しています。

引き続き、良好なファンダメンタルズを持つ国に焦点を当て、健全な資本構造を持ち、持続的な収益成長が見込める優良銘柄を選好していく所存です。

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。

※その他、当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を11/11ページに掲載していますので必ずご参照ください。

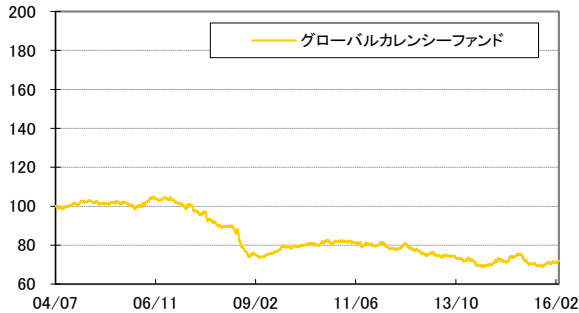
<特別勘定の種類>

グローバルカレンシーファンド

短中期債を主な投資対象とし、通貨運用により超過収益を追求する投資信託に主に投資することにより、短期金利を上回る投資成果をあげることが目標にします。

運用実績<ユニット・プライス*>の推移

* ユニット・プライスとは特別勘定の運用実績を把握するための便宜上の「参考値」で、特別勘定の運用を開始した時点(2004年7月12日始)を「100」として指数化したものです。



特別勘定の騰落率

騰落率	1カ月	3カ月	6カ月	1年	3年	設定来
グローバルカレンシーファンド	1.16%	1.11%	3.47%	▲2.77%	▲4.30%	▲27.91%

特別勘定資産内訳

	構成比(%)
現預金・その他	4.0
投資信託	96.0
合計	100.0

【参考】主な投資対象の投資信託の運用状況

メロン・オフショア・ファンズ・日興グローバル・カレンシー

グローバルカレンシーファンドの主な投資対象である投資信託「メロン・オフショア・ファンズ・日興グローバル・カレンシー・ファンド(円建クラス)」の運用状況をご参考のため掲載します。(出所:BNYメロン・インターナショナル・マネジメント・リミテッド)

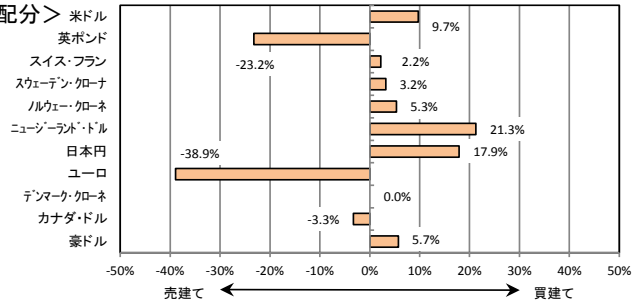
<基準価額の騰落率>

設定日は2003年11月25日

	3カ月	6カ月	1年	5年	設定来
Gカレンシー	0.94%	3.64%	▲3.02%	▲11.78%	▲27.34%

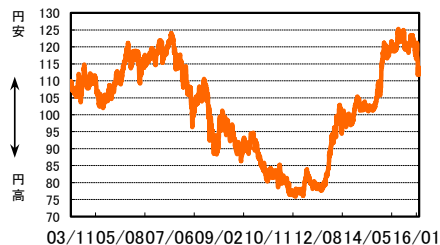
※ 分配金込み一戸あたり純資産価格のパフォーマンス(税控除前)

<通貨配分>

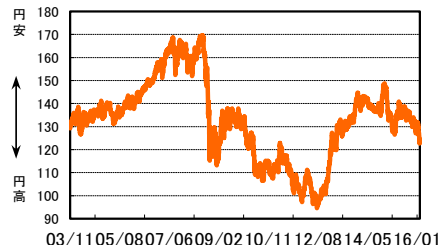


<為替市場の推移>

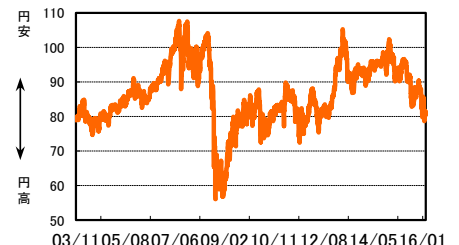
(円/米ドル・レート、単位:円)



(円/ユーロ・レート、単位:円)



(円/豪ドル・レート、単位:円)



<運用コメント>

・市場環境

当月、全ての各投資対象通貨が対日本円で下落しました。騰落率順に、カナダ・ドル、スイス・フラン、ニュージーランド・ドル、豪ドル、米ドル、ユーロ、スウェーデン・クローナ、ノルウェー・クローナ、英ポンドが対日本円で下落しました。米国では、米ドルが各対象通貨に対してまちまちの動きとなりました。日本円、カナダ・ドルなどに対して下落した一方、ノルウェー・クローナ、英ポンドなどに対しては上昇しました。当月(2月)、米連邦準備制度理事会(FRB)は政策金利の誘導目標を0.25~0.50%の範囲で維持しました。中旬に行われた議会証言でイエレンFRB議長は、米国経済の下振れリスクを指摘した一方、慎重ながらも楽観的な見方を維持しました。また、金融市場の混乱を受けて、従来想定していた追加利上げの時期を先送りする可能性を示唆しました。一方、海外経済の動向が米国経済の成長にリスクをもたらしているとしながらも、米連邦公開市場委員会(FOMC)がすぐに利下げの必要な状況に直面するとは想定していないと発言しました。10-12月期の実質GDP(国内総生産)成長率(改定値)は、前期比年率+1.0%となり、速報値の+0.7%から上方修正されました。日本では、日本円が全ての投資対象通貨に対して上昇しました。当月(2月)、日本銀行は「マイナス金利付き量的・質的金融緩和」の現行政策を維持しました。黒田総裁は景気動向については、輸出・生産面に新興国経済の減速の影響がみられるものの、企業部門・家計部門ともに所得から支出への前向きな循環メカニズムが作用するもとで、緩やかな回復が続いているとし、物価面では、生鮮食品を除く消費者物価の前年比は、0%程度となっているものの、生鮮食品・エネルギーを除く消費者物価の前年比は、27ヵ月連続でプラスを続け、最近では+1.3%まで上昇するなど、物価の基調は着実に改善しているとの見方を示しました。

・パフォーマンス分析

当月は、米ドルの買建てなどがマイナス寄与した一方、英ポンドの売建てやユーロの売建てなどがプラス寄与し、全体でプラスのパフォーマンスとなりました。

・投資行動

当月は、イールドカーブ変化の観点から魅力度の上昇した英ポンドについて、売建て比率の引き下げを行いました。一方、イールドカーブ変化の観点から魅力度の低下したスウェーデン・クローナ、カナダ・ドルについて、それぞれ買建て比率の引き下げ、売建て比率の引き上げを行いました。

・運用方針

当月は、実質金利の観点で魅力度が高いニュージーランド・ドルを買建て上位とする一方、実質金利の観点で魅力度が低いユーロ、イールドカーブ変化およびリスクリバーサル観点で魅力度の低い英ポンドを売建て上位としています。

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。

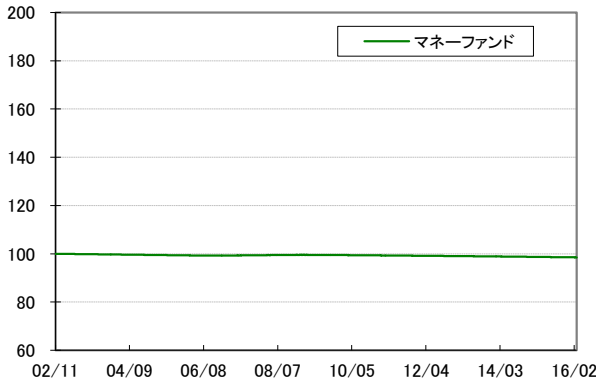
※その他、当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を11/11ページに掲載していますので必ずご参照ください。

<特別勘定の種類> マネーファンド

他のファンドで運用している資金の一時待機を目的に安定した運用を目指します。
主に国内の公社債および短期金融商品を中心に投資することにより、安定した収益をあげることを目標にします。

運用実績<ユニット・プライス*>の推移

*ユニット・プライスとは特別勘定の運用実績を把握するための便宜上の「参考値」で、特別勘定の運用を開始した時点(2002年11月1日始)を「100」として指数化したものです。



特別勘定の騰落率

騰落率	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年	設定来
マネーファンド	▲0.02%	▲0.05%	▲0.09%	▲0.19%	▲0.53%	▲1.48%

特別勘定資産内訳

	構成比(%)
現預金・その他	8.4
投資信託	91.6
合計	100.0

【参考】主な投資対象の投資信託の運用状況

日興MRF(マネー・リザーブ・ファンド)

マネーファンドの主な投資対象である「日興MRF」の運用コメントをご参考のため掲載します。
(出所:日興アセットマネジメント株式会社)

<組入資産の種類毎の組入比率> <格付別構成比率>

区分	比率
国債証券	4.6%
地方債証券	0.0%
特殊債証券 (除く金融債券)	0.0%
金融債券	0.0%
普通社債券	0.0%
CP	20.3%
CD	0.0%
債券現先取引	40.4%
債券レボ取引	14.9%
その他資産	19.8%
合計	100.0%

公社債		短期金融資産	
格付	比率	格付	比率
AAA	0.0%	A-1	84.5%
AA	4.6%	A-2	0.0%
A	0.0%	A-3	0.0%
BBB以下	0.0%	NR	0.0%
		その他	10.9%
A相当以上	0.0%	A-2相当以上	0.0%
	0.0%		0.0%
合計	4.6%	合計	95.4%

※組入比率は、純資産総額に対する評価額の比率です。
※公社債の「A相当以上」及び短期金融資産の「A-2相当以上」は、投資信託協会自主ルール「MMF等の運営に関する規則」に基づき当社が作成したガイドラインで判断したものです。上段は1社の信用格付業者等による信用格付があるもので、下段は信用格付業者等の信用格付がないものです。
※「その他」は、有担保コール・ローン、指定金銭信託、未収金、未払金等です。
※国内発行体はR&I、JCR、Moody's、S&P、Fitchの順に優先して適用し、海外発行体は、Moody's、S&P、Fitch、R&I、JCRの順に優先して適用しています。
※日本の国債、政府保証債はAA格、格付を付与されていない地方債は、A格に含めています。
※政府が保証しているCPはA-1に含めています。

※組入比率は、純資産総額に対する評価額の比率です。
※「その他資産」は、コール・ローン、指定金銭信託、現先取引、債券レボ取引、未収金、未払金等です。

<組入資産の発行体別組入比率(上位10)>

公社債(国債、地方債、特殊債を除く)			短期金融資産			備考
順位	発行体名	比率	順位	発行体名	比率	
1			1	三井住友信託銀行	4.0%	
2			2	三菱UFJ信託銀行	4.0%	
3			3	みずほ証券	2.7%	
4			4	三菱UFJリース	2.7%	
5			5	三井住友ファイナンス&リース	2.3%	
6			6	みずほフィナンシャルグループ	1.7%	
7			7	三菱UFJモルガン・スタンレー証券	1.5%	
8			8	SMBC日興証券	1.0%	
9			9	三菱商事	0.3%	
10			10			

※組入比率は、純資産総額に対する評価額の比率です。
※「短期金融資産」は、CP、CDです。

<無担保コール・ローン翌日物(上位5)>

順位	名称	比率
1	セントラル短資株式会社	5.0%
2	上田八木短資株式会社	2.5%
3		
4		
5		

※組入比率は、純資産総額に対する評価額の比率です。

<無担保コール・ローン期日物(上位5)>

順位	名称	比率
1		
2		
3		
4		
5		

※組入比率は、純資産総額に対する評価額の比率です。

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。
※その他、当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を11/11ページに掲載していますので必ずご参照ください。

当資料はアクサ生命が新ユニット・リンク保険(有期型)
「LifeDO」・「LifeDO80」の特別勘定について運用状況などを報告する資料です

ご注意いただきたい事項

▲ 投資リスクについて

この保険の据置(運用)期間中の運用は特別勘定で行なわれます。特別勘定資産の運用実績に基づいて年金額、死亡保険金額および解約払戻金額等が変動(増減)します。特別勘定資産の運用は、株式および公社債等の価格変動と為替変動等に伴う投資リスクがあり、運用実績によってはお受け取りになる満期保険金額や解約払戻金額の合計額が一時払保険料を下回ることがあります。これらのリスクはすべてご契約者に帰属します。

▲ 元本欠損が生じる場合があります

解約の時期、被保険者の契約年齢等の諸条件により、ご契約者等が受け取る金額の合計額が、お払込保険料の合計額を下回る場合もあります。
保険会社の業務または財産の状況の変化により、保険金額、給付金額、解約払戻金額等が削減されることがあります。

▲ 諸費用について

諸費用について	ご契約の締結・維持、死亡保障にかかる費用および特別勘定の運用にかかる費用があります。払込保険料からこれらの費用を差し引き、残りを運用対象額として特別勘定に繰り入れます。したがって、払込保険料の全額が特別勘定で運用されるものではありません。なお、これらの費用は、性別・契約年齢などによって異なり、金額や割合を表示することができませんのでご了承ください。また、これらの費用はご契約後、特別勘定からも定期的に控除されます。
移転費	積立金の移転が年間13回以上のとき、移転一回につき1,000円を、保険会社が移転を受け付けた日末に積立金から控除します。
投資信託の 信託報酬	日本株投資力学ファンド 年率2.16%程度(投資信託の運用成績により変動します。)
	日本株ジパングファンド 年率1.8576%程度(投資信託の運用成績により変動します。)
	日本株エポリューションファンド 年率1.9116%程度
	日本株インデックス225ファンド 年率0.5616%程度
	日本株インデックスTOPIXファンド 年率0.5616%程度
	グローバルグロースファンド 年率1.404%程度
	グローバルソブリン債券ファンド 年率1.1556%程度
	グローバルリートファンド 年率1.62%程度
	グローバルカレンシーファンド 年率1.5%程度
マネーファンド 年率1.0%以内(投資信託の運用成績等により変動します。2016年2月末:年率0.0005%)	

資産運用関係費は将来変更されることがあります。
その他お客さまにご負担いただく手数料には、信託事務の諸費用等、有価証券の売買委託手数料および消費税等の税金がかかりますが、費用の発生前に金額や割合を確定することが困難なため表示することができません。また、これらの費用は各特別勘定がその保有資産から負担するため、基準価額に反映することとなります。したがって、お客さまはこれらの費用を間接的に負担することとなります。

その他ご注意いただきたい事項

- 当資料は、特別勘定の主な投資対象である投資信託の勧誘を目的としたものではありません。
- 新ユニット・リンク保険(有期型)「LifeDO」・「LifeDO80」は、生命保険商品であり投資信託ではありません。また、ご契約者様が直接投資信託を保有されている訳ではありません。
- 新ユニット・リンク保険(有期型)には複数の特別勘定グループが設定されており、「LifeDO」・「LifeDO80」には「特別勘定グループ(日興型)」が設定されています。保険料繰り入れおよび積立金の移転は「特別勘定グループ(日興型)」に属する特別勘定に限定されます。「特別勘定グループ(日興型)」以外の特別勘定グループに属する特別勘定への保険料の繰り入れおよび積立金の移転はできません。
- 特別勘定および特別勘定の主な運用対象となる投資信託の内容が変更されることがあります。
- 特別勘定資産の運用実績は、特別勘定が主な投資対象とする投資信託の運用実績とは異なり、一致するものではありません。これは、特別勘定は投資信託のほかに、保険契約の異動等に備えて一定の現預金等を保有していることや、積立金の計算にあたり投資信託の値動きには反映されていない保険にかかる費用等を特別勘定資産から控除していることなどによるものです。
- ユニット・プライスとは、特別勘定の運用実績を把握するための便宜上の参考値で、各特別勘定の運用開始時の値を「100」として指数化したものです。

新ユニット・リンク保険(有期型)「LifeDO」・「LifeDO80」は現在販売していません。